



泰時明斷錄  
二

~ 13  
3367  
2



13  
3367  
2

北條泰時明勅録第一輯卷之二

大正十年八月廿九日  
本大學出版部謹贈

東都 松亭金水編次

第三回 米舖妖猫の下れ始

再説晚稻の米作り。後妻とあるを来り一日あり。田吉早苗とあるは  
良人ふ仕を信実とあるは米作り。更ふ。あるは渾家とあるは心の  
裡に歎びて猶活業成励むむとある。麿のすく。繁昌とあるは利濟とある  
多る。斯く生涯心易し。あるは田吉早苗が成長の候の  
あり。然るもその年睦月の頃より。晚稻の只ある。あるは心成連とある  
あるは毎夜由せを起し。あるは酸のを好むとある。あるは又遠ひ  
あるは月日のとある。自然にけんとある。間も四五月の頃ある。腹とある

月新録第一輯卷二



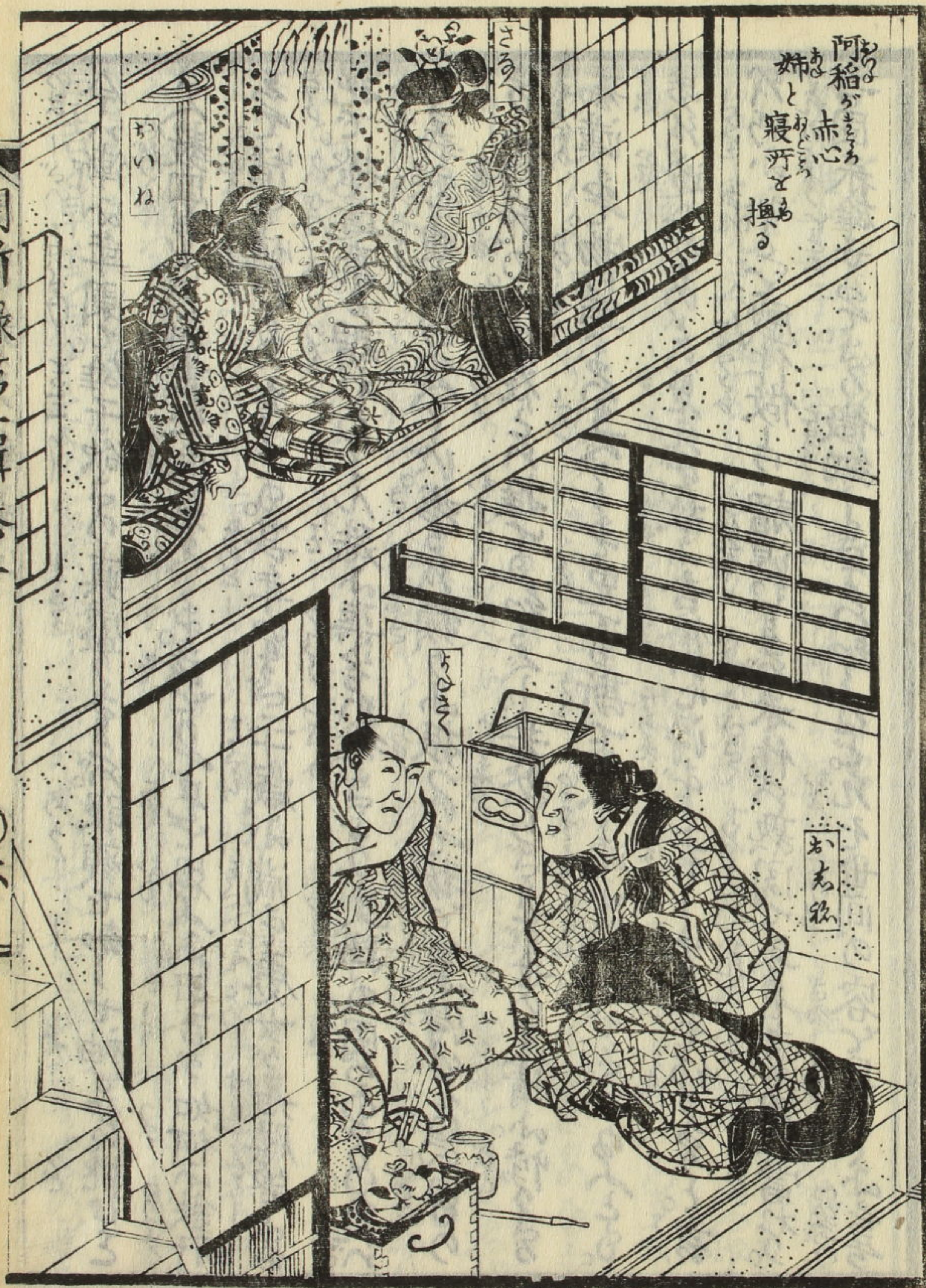
何時までも斯てあぐさ。今こそ実の婚姻さへ。初孫の顔をもるを。と  
 一時晩稻ふうち對ひ先頃より折ふ。話説聞え。田吉と早苗の元  
 是道まぬ因縁ありて。支拂ふせぬ恨の條多。故に兩三年以前より  
 婚姻とせまも。思ひより一が勝り早くと。兎角するうち田吉の二十  
 歳早苗の十九ありぬ。娶へての年。年齢も。近きふ良辰  
 孤擇に。婚姻さすべく思ふる。おん身も如此心得ね。と。ふ晩稻の  
 傍に向きて果敢と。まの回答も得せ。兩回三面良人ふのせを。漸  
 此方と。向き。まの要時冷笑ひて腹立の。知る孫も。結構仁  
 と。河房の異名と。せぬ。まのうと。ゆると。おん身の味。一編ゆる。  
 実小生る。佛ふ。あると。生馬の眼も。枝兼ぬ。今の。浮せ。似合。

く。おん身の田吉。然る。良弱官と思ひの。表面の。とも篤  
 實。おん身の勿論。吾侪。始。兩個の嬢。中。睦。艶。死。容。小。歡  
 侍。ども。裏面の。計。ら。ま。の。頃。人の。噂。み。因。祇。園。と。小。野。と。ら。  
 支。の。定。り。お。音。ね。ども。馴。染。重。ぬ。女子。あり。て。身。の。ゆ。ま。の。り。ま。も。と。濃  
 ち。小。詰。ら。ひ。に。斯。て。田。吉。が。心。根。め。え。お。の。家。の。富。貴。ある。し。も。金。吾。父。の  
 賜。る。と。ば。家。財。代。呂。物。遺。り。の。遺。ひ。う。と。も。不。義。ある。め。と。親。き。人。の  
 折。ふ。觸。れ。物。結。る。よ。の。後。で。因。ぬ。や。集。り。父。の。遺。物。を。活。業。の。補。め。す。る  
 ち。渠。四。歳。の。その。冬。より。育。て。られ。る。鵠。恩。の。僅。の。黄金。小。換。へ。て。父。今  
 更。忘。し。果。て。悪。言。吐。物。を。そ。免。ま。し。人。傳。め。聞。ら。る。と。証。小。あ。じ。流。の。契。り。の  
 女。の。の。の。は。小。因。て。且。小。証。小。大。の。身。届。ぬ。と。人。が。う。海。の。来。作。も。収



嗒めたる善悪の理非の分るはし。若悪しとの條ゆへ今暫く止んぬ。  
 然のそ論ふとあるは。聞まむは証候の苦一と結るとあるは。  
 晩稻も微笑して聊腹をたのむは。物の善悪をいんとすれは。思ふは真顔の  
 ありのそあるは。詞数にまよはれは。喧嘩の如くも関わり。仇多とみ外ありは。  
 努悪と見ると言せし。あやむ。乳も當り。許し。任り。米作の何  
 条心も懸る。賢妻の良人と練めて。その不義を改め。例の幾干の  
 ありのそ。順ふ。道とする。女もあやむ。澄ぬ。一。意のそ。わある  
 べた。支那の。と。や。関。証候の條と結り。切。責。晩稻。ち  
 笑。這。の。身。が。眼。前。で。の。た。條。あ。ね。も。乞。れ。止。事。あ。吾。們  
 過世の幸あり。兩個持てる嬢の兒姉といひ妹といひ。十人並の標致あり。

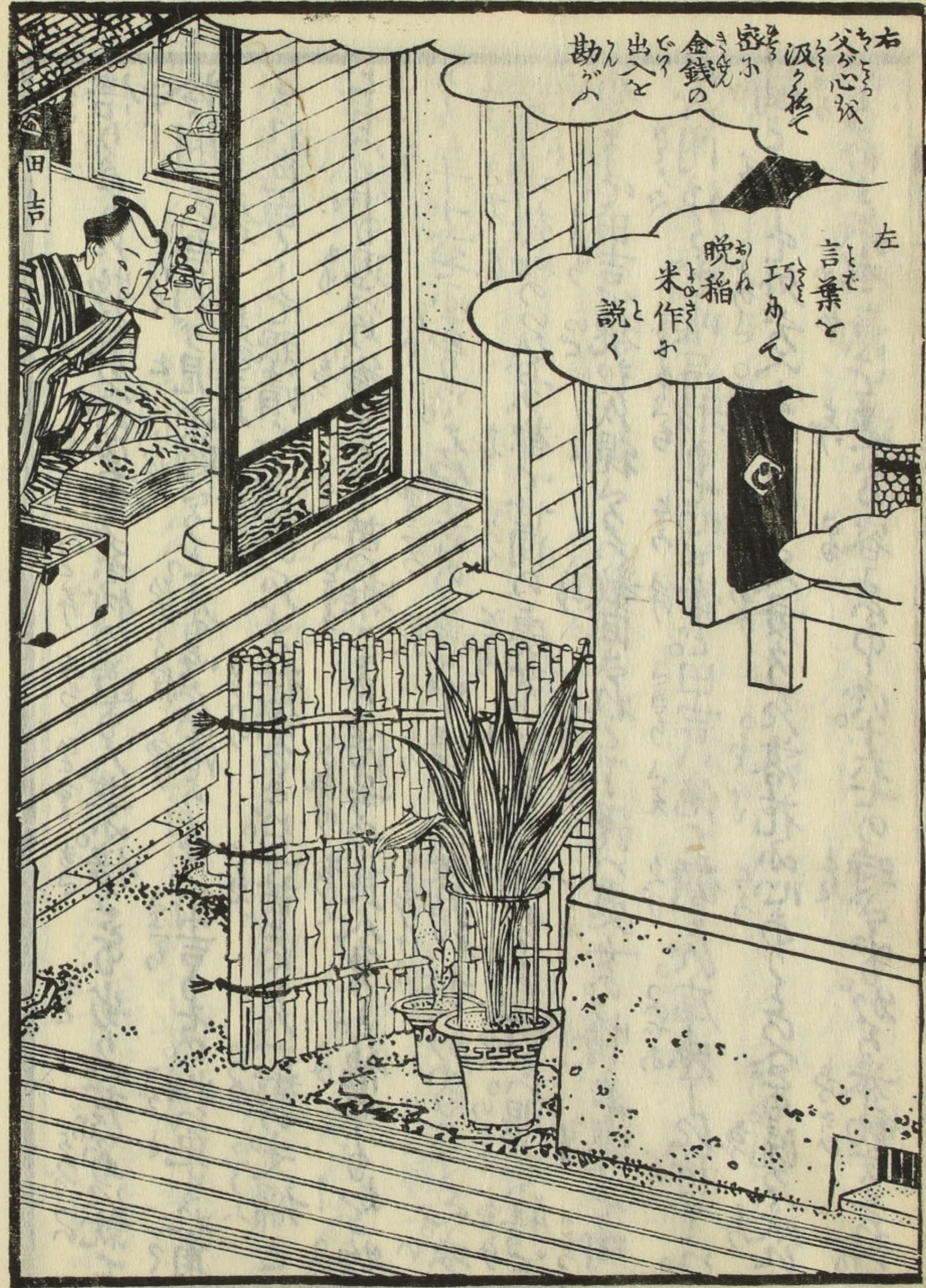
倍り。物縫の。更。糸竹の。道。人。葉。倍。も。劣。り。せ。あ。就。て  
 伶俐。吾。們。見。小。過。と。人。の。心。あ。り。田。吉。の。性。免。れ。角  
 まれ。色。白。く。眼。清。く。愛。敬。つ。た。る。杜。使。と。早。苗。と。一。對。の。丈。婦。と  
 と。そ。の。難。も。思。ひ。妙。も。早。苗。稚。ま。り。結。号。の。良。人。あ。り。と。後。七。の。物  
 う。年。十六。七。あ。り。の。名。生。心。の。着。ゆ。頃。も。髮。結。化。粧。の。あ。り。衣  
 裳。の。着。様。物。の。い。ろ。都。て。世。間。の。處。女。に。似。て。姍。姍。ゆ。り。折。と。眼。元。小。情。と  
 含。み。て。田。吉。と。挑。ひ。視。る。の。數。回。され。ど。了。得。の。處。女。の。情。を。逼。と。啣  
 舌。聞。け。む。唯。品。形。の。心。と。率。ど。田。吉。の。絶。て。願。ふ。序。悪。し。折。り。の  
 衝。と。外。と。外。方。へ。か。さ。る。と。さ。さ。り。落。花。心。あり。と。の。人。の。流。る。水。に  
 心。の。け。ま。本。意。と。迷。る。容。あ。り。と。十六。七。の。時。も。か。ら。奉。勤。す。る。が。



阿稻が赤心  
姉と寝所と  
換る

お志保

月新録第一冊



右  
父が心板  
汲く後  
密に  
金銭の  
出入と  
勘がみ

左  
言葉と  
巧み  
晩稲  
米作  
説く

田吉

田舎録第一冊

五

今ハ漸いま小羊園こやまのと雄子おとこ欲ほさの真盛まことりるま。眼顔めくらでいちい世よとい挑いじいと  
 人ひと數かず回まわりま。田吉たきちハ一向いっぺん見みええるる。茲こゝどこりりとと思おもふふ田吉たきちが如何いかに小鉄肝せつかん  
 ちて情なさけと慎おそむむののありありも。其年そのとしののままにに二十にじゅう歳さい小満こまんをを處ところ女にが居す膳ぜん者ものささ  
 把つかでで搔か遣や棄するる謂いれれののんん珠たま小渠こみち者ものの雅みやびききらら。又また孫まごの固かためめののままれれ  
 不義ふぎ密通みつつうととららののべべらら頻あまりり小振こぶつつけけ物ものとと不ふ得えののををねねのの男おとこの  
 方かた小倍こばい花はなの他ほか小在こざいとと推おしててのの知しららずず。若わか然しかららずずとと世よのの人ひと情なさけ小悖こはいりりるる  
 痴漢ちかん老物らうぶつの要ようありありととままららずず。兒こも斯かくも今速いますみ小婚こん姻いんせせととををめめのの人ひとととも。  
 未ま瓜うり遂すいへへたたののとと小見こみををなな。故ゆゑ小吾ご倚よ心こころ得えとと言まううららるるとと信まちまちちありありとと言まうう  
 巧たくま小ことと戲あそ作しや做しやらら謂いれれるる。米作こめしやの熟じやく固かたとと又また老らう者もの思おもひひ當あたりり  
 吾固ごこ未雄みゆう子こ也なりととささるる微細みさいととままららずず。元もととと世間よこの容ようと見みままるる小ことと号ごう

昔むかし雄子おとこ女子むすめと一室いっしつ小おおく時ときハ何時いづれ時ときハ親おやの許もとききららずずもものの妹いもうと脊せの結むす  
 りりて見みええるる産うまするるののももままららずず。又また引ひ換かりりかか家いえの若わか者もの怪あやししととままららずず  
 ろろ。金肝かねかん鉄腸てつちやうとと義ぎと守まもるる。とと殊勝とつせうとと後あとててもも心こころ裡うち小賞しょうててありありととまま  
 然しかををくりの釋とくありありけけるるとと田吉たきちがが居するるとと深ふかささののままららずず  
 聊いさハハちちささ條じょうありありとともも是こゝでで外ほかめめががどどままのの其その依よ小動どう靜じやうととるるとと悲かなひひ  
 ががたた時ときふふらら如何いかに小もも詮せん方かたありありんん。又また身み也なり如此かく心こころ得え物もの數かずととををままららずず  
 そそとと又また婦めかけ俱とも々々結むすりりててままにに月つき日ひをを過すりりけるる。夫その北きた鷄けいの具ぐするる。その家いえの  
 荒あれれめめとと既すで小古人ここじんの格かく言げんありあり。米作こめしやのの律りつ儀ぎめめてて人ひとの美み惡あくををままららずず量りやう  
 多おほくく晚おそ稻いなの性しやう遲ちとと采さい利りと計けいるるののままららずず。奸あや智ちありありののままららずず  
 田吉たきちと早はや苗なほと娶めとりりててその家いえをを継つぎするるとと米作こめしやせせもも亡なしし時ときハハままららずずととままららずず



阿指の何となく。水も交り。油の如く。始終面白うござらん。惣のて田吉の徳を  
 ま。世のふりて恩人の。身とのひま。と落度あり。遊び夫とて容易く。固未  
 その性温順也。仕使の似ぬ篤実多し。女塔と為るも不忌の。早  
 苗て。他へ嫁し。河指と田吉の跡継とて生涯安樂の過人の。恩人の  
 くらう。指の跡形も。濡衣着せ。その婚姻と。延せ。あり。米作曾て  
 と。夜曉らば。田吉の池も深く契り。女子の。あとの。心持。今までの買  
 かり。の。数々の黄金と首の懸を。飾りて。后の。残る。金貨。頃か。さ。は  
 とも。曾て。問を。開。した。折なり。紛。して。その。休。田吉。懐。五日。三日。納。ま  
 り。た。る。の。数。回。多。う。と。是。より。后。の。買。か。り。の。自。り。性。で。田。吉。は。さ  
 ら。若。後。金。貨。齋。して。お。す。と。あ。る。ま。た。の。今日。の。何。方。も。何。方。へ。性。を。登。隔。の

何処まで行くべしと。逸く。小問。室。將。聊。の。買。物。も。その。賣。上。成。把  
 て。来。よ。と。事。嚴。重。の。做。し。け。り。と。田。吉。の。始。め。て。心。づ。た。吾。一。点。を。り。も  
 金。銭。の。あ。ふ。就。て。無。界。な。る。と。命。出。し。と。は。克。知。り。て。錢。も。金。も。ち  
 任。し。重。の。ひ。一。次。斯。暴。の。嚴。く。す。り。る。故。の。り。つ。ふ。の。お。お。於。て。過。也。  
 と。の。思。ふ。の。り。う。金。銭。の。か。入。の。合。ぬ。と。あ。り。て。史。と。の。言。は。嚴。の。做。し。の。み  
 の。あ。り。と。近。曾。胸。の。覺。え。る。か。入。と。自。り。計。り。身。を。絶。て。差。へ。る。こと。の  
 多。し。然。る。に。奈。何。の。故。成。り。て。暴。の。斯。計。り。の。あ。り。と。その。心。の。解。り。が。い  
 じ。れ。と。吾。身。の。行。ひ。正。し。く。あ。る。の。あ。り。と。自。り。顧。り。是。より。の。指。以。前。の  
 倍。で。深。く。慎。り。萬。の。然。て。油。断。る。月。日。と。を。送。り。け。し。斯。と。その。年。の。暮。て  
 兼。久。二。年。の。春。と。あ。る。然。る。に。米。作。の。日。米。田。吉。が。う。へ。心。成。着。て。その

奉勅と窺ふ。夜遊びをどふかしのあり。要向ありと使ふかせむ。路の  
 遠近も随ひて帰らる。刺限更も差す。月外のことも心成用ひて物さるも  
 以前も換らば斯て先頃晩稻のひひの全く他の謗言も。集り憎む  
 の。証言もくんと。吾曉らびてその日未疑ひ思ひし罪のと論り。今も  
 何事猶豫す。早苗と替柄とをすべし。漸く心成決して。一時晩稻の  
 對ひて。俸のやう成具ふ語。早くも要して。あん身の安堵するがよし。畢竟集  
 等。汝肝ののるはこそ斯てもあり。尋常ののるは。吾が眼と若びて  
 薄び合ふも。詮方なると。何時まで相あつた。と有理ある良人が。親小  
 晩稻の何とも回答して。雲時あり。ぐま。世如ふ。計較と思ひ。後け。亮  
 示す。ふらち笑とて。如何も。あやの命する。通り。先頃吾侪が。地より。聞ら。

全くの虚言あり。然るに今速に娶合ひのん。至極よろし。然るに替  
 柄の雄子も。女子も。一生の大禮あり。之れ人のあはれ省きて。その形を  
 せ。成りてするれど。もく。僥倖小豊も。其。僧伸の。ど。あ。び。の。あ。を。
 身分も相應せる。禮と整へて。あ。の。ひ。吾侪元。河。所。な。て。その。法。式。成  
 儀。あり。見。聞。ら。る。も。あり。が。是。考。の。都。て。下。さ。ぬ。の。准。め。さ。げ。ら。る。然  
 る。と。早。苗。も。新。なる。衣。一。重。も。ら。ら。る。て。着。せ。び。の。生。さ。ぬ。中。あ。る。と。人。の。口。端  
 ち。將。ら。る。さ。一。兵。服。物。商。ふ。家。の。買。ひ。の。り。易。け。し。と。一。生。も。一。回。の。と。  
 豊。小。も。親。甲。斐。也。の。西。陣。を。之。誠。を。思。ひ。が。ま。小。織。せ。ぬ。一。際。あ。り。  
 工。の。あ。る。と。ん。の。あ。り。と。儉。約。と。音。と。あ。の。心。り。と。史。考。の。貴。と。覚。す。た。れ。

鎌倉涉りの人でも。有徳も。若。ま。人の。女。見。と。嫁。入。を。前。の。遥。と。あ。の

京師へ逃ぐ。深きすものあり。織をもち。況てその土地はゆを嫁入衣裳は  
 存命の東西老済の心ゆ金五七両も懸らんよ思ふ終小整は。  
 この吾侪が願ひのあること。然計らひて得る。秘と切ふのふを米作物の  
 入目へ厭ふこと。固より女児お着するの衣裳はさうのふかと思ひて。  
 晩稻が詞小任し。終るん必注文と急お逃へおとふ。小晩稻はさう  
 とまづ。繪師とてその模様。図と描せ。西陣へさう。織敷の主小對し。  
 かの園と屋を注文す。この止事。おた方さる。頼まれさう。あふおれが  
 絲一筋も疎畧さう。吾侪が念ふさう。後日の為。おはさう。比月。日  
 數。何ぞとふ。延る。その厭ふ。念入。織をさう。お主人。お家  
 持。日數。お急。お。如何。お。精。お。則對終事。終。家。飯

お米作の急おは。老。越。さ。お。逃。へ。さ。う。と。偏。り。お。さ。う。折  
 お。如。月。の。未。旬。お。竹。の。花。お。咲。さ。あ。日。も。藤。お。さ。う。け。お。晩。稻。の。種。々  
 屈。澤。お。花。見。お。佳。ま。い。も。著。お。今。日。お。近。所。の。處。女。お。岩。山。の。花  
 視。ん。と。お。早。苗。と。阿。稻。と。誘。ひ。さ。う。が。阿。稻。の。季。候。中。り。お。頭。痛。さ。う  
 と。お。俱。お。佳。早。苗。お。父。の。許。と。得。て。朝。頃。さう。割。籠。お。准。備。お。さ。う。出  
 たり。田。吉。も。要。の。と。お。て。日。中。の。ゆ。さ。う。家。お。在。り。米。作。も。退。屈。お。涙。お  
 窓。や。燈。お。人。居。間。お。晚。稻。と。阿。稻。の。さ。う。對。ひ。て。在。り。さ。う。晚。稻。お。阿。稻。と  
 迎。く。招。き。お。元。お。世。間。お。親。と。さ。う。見。と。さ。う。と。深。さ。お。け。お。見。お。漸。く  
 成。長。さ。う。親。お。衰。へ。お。此。お。分。お。老。若。の。志。お。折。差。お。い。お。親。の。云  
 こと。見。の。様。お。い。お。見。の。了。張。お。親。お。情。さ。う。是。等。お。考。へ。て。の。人。情。お。さ。う。

むし身ハ他所の處女ふ超て親の意ハ一点惚らび心操え候しければこれ  
 のまハ飲ぶのり折て聴せあるもの家相續のりハも右左と兼引せ  
 とまど吾侑が且暮小房と思へるまありまう克思て下見あり程程の  
 頃より見たまふ足なと伸とその丹誠容易のと思ふあつ小児ハ程の申  
 斐あつて少の暑ハ寒さ中り易きものかま心と著るま若のこ  
 瘡瘡麻疹のいも更あつて或ハ其心をつら時ハ夜も直寐そふゆ  
 焦一骨と削る寒病のあつ時ハ世小児の者あつて如何ハ後易  
 ろんとおもひ思ふ斗りあつ斯辛苦ト育揚げ漸人乗あつとその侯  
 他嫁入て吾見を親の自由あつて折て往つても陥り繁とあ  
 るは姑の前も宜くばと且衣え控ゆる実ふと直何の所をぞ嗚呼持つ

まぶの女の子と歎息すま阿稻面答て命す方処念道理のつ由吾侑  
 らふ形て生涯養ひ参るゝ思ひはれど如何ふせん姉君あつその  
 誓あつてや何程の思ふとも恨ひがたのいふえと言せも敢て顔とら  
 恨むるとの條あつてその世方より先頃よりものを通り甲吉早苗  
 稚き時より言馬とのいふ末ご裁の婚儀とせ候と云へん心  
 と田吉と此方のまふ着る傘傘が前ハ如何おもして田吉と云ふが誓  
 と早苗と他嫁入せんと水と飲より猶易うまも甲吉ハ當時の  
 壯快ふ似ぬ鉄肝と三週を復命する程と云ふまふ心持を言ま  
 一の術計とて陥せんと難きまあつて珍なり身が賢人づくと云ふの  
 計策と兼引候その術計のりまふ吾見あつて鬼とて憑りてぬ

心多と吾の明暮思のうと。恨りぬふ阿稻が教はうち守りて在られ  
ハ阿稻の心とく當惑せしが。信と心と把直し。彼今幾回言ふも。この邪多  
條内と人々の。弟一不慎にたるとあるも。母公の命重たれは曲ては  
意小随ふも。う邪多の所をて做して生涯安樂を送らんと。覚束るは  
るし。善悪も小教ひわると。物の本も身も。何れも。長あらんぬ姉が  
良人と憑じ入寐さう。一旦の采利のありも。未小悪き教ひ来らぬ吾信の  
を母表の。うも。あれた苦勞做し。あらん。ま。必を強ふ思ひ止まらぬうと。  
當然さう女兒が。銅さうの。うも。仲小教うらうて。振うけ。

第四回

米舗妖猫の下の終

再説晚稻ハ田吉等が。婚姻と免小角拒と。その間ハ阿稻と。餅を

まて田吉が。うと。早苗の約が。妻改まると。種々心成。碎くと。へ。阿  
稻ハ心さぬ。扱ふ似む。いと貞節多。性質ゆ。一向と。不諾ぬ。あ。計  
策も。艱詰て。恃む。樹下。小雨。漏心地。畢竟。葉瓜。巧ま。う。婚姻と。伸  
せ。去年ハ。阿稻も。十五也。童心の。いま。ま。今。う。歳と。拾ひ。二。八  
の。春も。も。ん。ん。ん。ん。生心の。着る。え。一。當下。計ら。心。易。と。ま。う。半  
羊。次。伸。し。し。此。程。ま。その。沙。汰。あり。這。回。ハ。計。ら。ぬ。ゆ。り。七。暗。夜。裳。小  
飯。託。う。二。月。可。成。伸。ま。う。ち。阿。稻。と。田。吉。ハ。情。合。あ。せ。ん。と。罷。之。計。り。小。思。ひ  
ぬ。親。の。心。成。見。ハ。か。む。今。ま。ま。辛。苦。さ。う。う。画。け。る。餅。を。て。腹。の。満。ち。  
遮。莫。女。あ。う。も。一。回。思。ひ。ま。ふ。一。と。瓜。成。ど。と。其。終。止。ま。ん。ぬ。如。何。の。せ。ん。と  
腸。絞。る。計。り。ぬ。又。倣。し。の。修。験。者。成。結。ら。ひ。て。咒。詛。ハ。験。の。成。れ。

今の世の人心。麻忽不結り。さあさあ。自らとて。成做さん。如く。尚飽  
 まて。邪念。成増長。て。密。白。衣。裳。は。毎夜。丑。三。の。頃。計り  
 志。ひ。中。小。起。せ。て。丈。ある。髪。を。左。右。小。捌。き。顔。を。白。粉。ぬ。いと。濃。く。照。く。  
 早。苗。が。臥。房。へ。あり。横。の。上。踏。踏。が。折。々。小。揺。動。う。せ。早。苗。の。寐。惚  
 ま。一。眼。が。閉。く。小。燈。火。の。消。え。て。空。く。身。を。ね。と。髪。を。乱。せ。女。の。姿  
 白。衣。裳。着。着。る。さ。あ。の。幽。冥。の。打。扮。ま。ま。も。再。眼。と。見。る。と。さ。さ  
 中。の。矢。庭。小。夜。具。引。被。ぎ。裏。く。胸。が。推。沉。め。身。が。縮。り。は。の。裸。小  
 弥。陀。の。名。号。を。唱。う。る。の。と。更。小。生。る。心。地。の。な。し。霎。時。あ。つ。て。横。の。上。に  
 り。ふ。る。程。小。密。小。面。を。出。て。見。る。と。何。地。へ。消。失。せ。り。然。れ。ど。も  
 怖。さ。惶。し。さ。ふ。起。る。と。と。人。得。る。と。と。汗。と。袖。で。拭。ひ。尚。称。を。

唱へ。寐。も。や。む。を。在。る。復。も。せ。然。と。心。の。迷。ひ。也。物。小。魔。の。ま。さ。り  
 の。あ。ん。と。心。小。納。め。人。の。結。り。斯。て。ま。次。の。夜。も。昨。夕。小。同。き。容。れ  
 ぶ。心。の。迷。ひ。あ。じ。此。身。小。覺。え。し。と。い。と。何。う。恨。む。條。あ。つ。て。せ。小。亡。人  
 の。身。也。父。母。も。頓。結。ら。び。て。思。ひ。つ。う。う。候。霎。時。あ。つ。て。親。見。て  
 案。ト。の。み。平。生。あ。る。活。る。と。死。結。り。あ。如何。も。按。下。苦。い。あ。ん。の。身。小  
 さ。む。り。の。因。縁。あ。つ。て。盡。物。の。あ。る。人。の。力。で。防。ぐ。べ。た。が。あ。た。事。と。ま。さ。て  
 物。と。思。つ。て。殺。す。も。心。憂。き。事。あ。つ。と。日。頃。経。れ。ど。人。小。い。ん。び。彼。者。最  
 殺。さ。し。て。殺。さ。る。と。覺。悟。し。と。う。然。れ。ど。の。程。心。神。勞。且。面。の。色。青  
 ざ。あ。て。三。三。の。飯。も。著。の。れ。ど。果。敢。と。あ。る。食。も。後。念。も。明。暮。を。れ。の。心。小  
 係。り。昼。ぐ。中。人。多。折。り。その。面。影。の。眼。前。小。遮。る。心。地。せ。れ。日。小。副。と

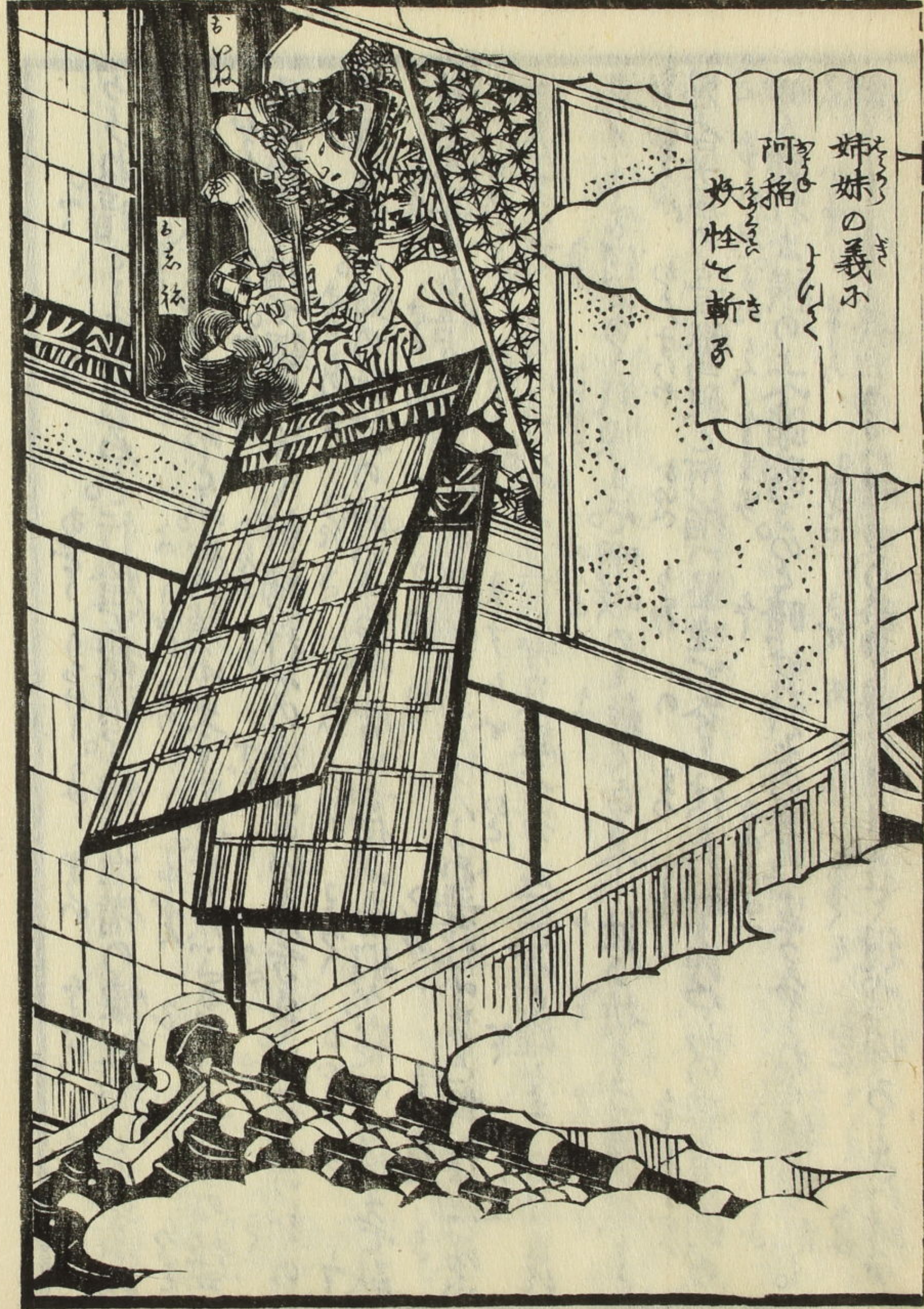






月め人今鳴の寐よとてさる女の鯨鐘あり人々もさる寐めらん身密ふ  
 吾恰が臥房へ忍びゆて寐め人ふさるれめひとと頻て早苗くよと執  
 て押遣がごとく倣しゆる也。早苗の今の辭りて身身が隨意とせ  
 儀着て臥めんと跡必遺れども斯まを妹が信実ある孤恃りんとて得  
 せ別とて妹が臥房ふあり衣引被まを取めけり早苗が臥房の儘て一も  
 母の晩稻が計らひゆ。二階の隅あり小舎をまへ阿稻の四邊と執見すじ  
 窓のやみどの掃りぬる頻て其処へ附けると思ひ設けしとてさる夜め  
 怪しき物のおそ人々魔と知りゆ此処お臥と使さば睡りんとまれば睡り  
 まば所詮今宵の姉ふ揃うて吠殺さるを這奴と殺すを二ッふッと覚悟  
 せしもの何う惶しぬるあえん熱燈火まであまを四をうさして使よ

くらね暗くして並むると行燈と撲消ゆ。襖で準備の懐劍とたぬる床の  
 下ふ入と今おくと候ゆどおの夜六稍ふ更とて蕭然なる風の音槓の板戸  
 の瓦墮と鳴て驟雨と軒端と打その凄まじい方あり頻て丑の刻の  
 頃及とる姉の物結の時の来ぬ今宵の如何ふ吾們が寢所と換えて臥  
 ころ早も悟りておさるのを尙もあえんあの変化もま首と松狸の所居ふ  
 ありと女ああがらゆ心裡のやま高寿良雄おあふと雄々たる一筋まは  
 めのう。さ何とさ戦慄と咽喉の乾くあえ。活る折く一陣の風りと  
 思入屏風の音驚破と阿稻の堅唾と香を候とあわゆるわの癖者の例の  
 如く顯れお横の上へ踏踏ゆ。暗ければその容のまらるるねと髪あり乱し  
 顔と衣裳の真白あつ暗夜の露と眼を遮りて在る視る怖るいよ姉が



姉妹の義不  
阿格  
妖性を斬る

日暮金生一巻

十六

話説ふ猶倍す。阿稻の密小床の下より。懐劍と逆さす執り。裏やとの声  
 のり共ふ。襖と蹴揚て身と起せ。病者の不意と寝れて。巡路所と押倒し。  
 膂力小任し。柄を心の透るくと。鳩尾のわらうと。三刀を突かれ。嗟と一声叫  
 び。教をそのまぢみ。死せけり。世物音と聞より。早苗の嗟と。起す。糶糶成  
 じ。執りて。大と移す。間の鈍く。慄く。口をささく。漸く。階へ登りて。さす  
 阿稻の癖者と推着て。懐劍の血も拭き。姉の教を。亮と。教びの  
 癖者。難く。さす。は。笛と。聞て。嬉し。と。怖り。と。早苗。胸の裏れて。  
 詞も。頼みの。さす。けり。折柄。田吉の。米作も。その。物音。小。敬。覺て。は。一。階の  
 早苗。臥房。多。何事。あ。え。と。寝て。見。さ。その。容。何。も。解。ま。さ。阿。稻。決  
 弟と。詞。頼。父。と。兄。ふ。物。詰。り。姉。小。換。り。と。盡。物。と。突。伏。は。由。と。の。そ。の。氣。健。中

計らひ。然。道。と。ま。人。間。め。盡。物。の。あ。ら。さ。と。田。吉。の。傍。へ。倒。と。倚。て。  
 燈火と。近。づ。け。り。引。起。と。顔。と。さ。み。母。の。晚。稻。あり。と。悟。然。と。て。人。と。  
 視。久。の。詞。も。は。米。作。始。め。兩。個。の。女。見。も。遠。く。如。何。中。の。い。ろ。の。更。小  
 兎。角。の。沉。吟。み。能。む。兩。個。の。女。見。亡。骸。と。揺。動。し。携。り。着。ら。る。と。斯。怪  
 氣。ある。打。捨。と。吾。們。死。惑。や。め。ひ。その。意。気。知。び。と。盡。物。と。の。さ。す。と。  
 計。ら。ぬ。の。か。本。さ。う。と。返。ら。ぬ。と。小。車。の。操。返。と。も。その。詮。じ。干。時。米  
 作。の。緯。の。顛。末。大。方。の。胸。小。推。し。と。と。晚。稻。が。大。悪。心。怒。地。敷。ひ。と。命。を。さ。す  
 その。産。の。見。の。ま。様。の。因果。應。報。觀。面。め。と。争。ひ。が。た。の。み。と。と。茶。の。の  
 う。此。ま。止。ま。と。あ。ら。さ。と。六。頓。小。廊。あり。と。米。搗。夫。と。呼。起。と。由。夜。告。  
 其。処。此。処。へ。を。り。と。知。せ。小。孩。と。四。隣。合。壁。の。ひ。の。晚。稻。が。親。里。ある。尾。花

や、た、ま、き、ひまか、すぢまきり、とくろ、おちあひ、めい、まろ、あ  
 屋敷をり来り。まが一通りの條を、何とも頻訴へ。官家の命取決み如  
 と。訴文の案を、倣せあり。免せよ。斯せよ。誓りあり。家内、鼎の沸が如く、  
 鶏鳴曉と告て。夜、白々と明らる。頃、檢非違使の下司、赤き狩衣、白紙を  
 と着し。ゆた杖と持し。雑人数多と後方。未作が門へ来り。人々、是れ  
 見返る。訴文漸くあり。是、もう廳出んと思ふ。名何者。注進と逸早、  
 官人の来りぬ。かとうち、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙  
 裡と見入る。米舖、米作と、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙  
 用て、向ひつうと、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙  
 詳し、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙  
 死人を點檢すと、米作、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙

身の癢と改め。逸々、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙  
 渡と、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙  
 人、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙  
 室、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙  
 妹、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙  
 阿、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙  
 其、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙  
 罪、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙  
 救、かざう、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙、赤き狩衣、白紙

隨意頓葬りのと成倣夫一阿稻がよ良辰也に沙汰ありと成に云  
 渡されて身と平め畏り申と面々早也阿稻二個囚の世に怖れた獄の住居  
 不渾身戦慄て肉を離る心地甚悲しと成倣夫をけつとにふのんはと米作  
 憫然とて前後と知る當下早苗はちと廷尉佐より對ひいと成倣夫侍  
 且どの愿ひ事せられたるのゆり一通り聞し各畢竟妹の罪申す事な  
 よう起りしと成倣夫も妹も母をよの勢存せざるの過あり故に愿ひ妹を救  
 妾と皇一の入りし妾は日く小衰へ死せざるに救はんとの赤心ありおるを  
 妹がわくまの妾が命に絶たれ程小絶たれ然も妾を命に救ひて其の命を  
 墮すふゆる歎かすの極に申す妾死すたの妹小換りて罪小伏す  
 原来原わくまに処せらるる涙と俱小けはる廷尉佐の因果といふ可き事

中と父兄弟の中よりその長最も條ありとも罪あり成救罪多し  
 陷るの法ありは汝殊勝の愿ひといふもその用ひれは差れ妹の悪  
 心も母に害せしと成倣夫の赤心却て仇とあるを災難小迫りれは是非  
 常の救のありと成倣夫は向経ひぬれば早苗も更小詮方あり退まの官小流  
 官を廳と成倣夫三箇の宿所へ取りし官小恨し母の死骸も年来の  
 惠を成思ふ心哀さ小成倣夫落る涙止らば頓て人うち寄てまづその亡骸  
 と成倣夫收め菩提と成倣夫葬りたり是より後月日違ふ経ると成倣夫官家より  
 絶て何の沙汰もなし阿稻は如何小倣夫ぬりと人々同に健也獄小在と成  
 関のり親を極心小落居免角する程小義久の乱祭り洛中の澄勅  
 大方あり貴賤阻と成倣夫冷すの処小宇治勢多の軍破と成倣夫京中光満

これより小掠りてあり。まゝ眼前ふ合戦のあり。ね。周章と遠國山林へ  
 逃申吟べたもあはれ。あ。屈まう。世の静謐と候けり。あ。思ひの外ふ  
 早く落座。翠年の五月の三上皇及兩親王と遠國ふ左遷也。新帝山即  
 位愛とす。儲是より後成敗刑法。食武家の掠とあり。兩六波羅小時房  
 ぬ。と。泰時ぬ。の。に。あ。ひ。氏。の。訴。と。因。あ。の。干。茲。於。て。あ。の。一。件。も。檢。非。違。使。の  
 廳よりして六波羅の北の方泰時ぬ。の裁断とす。と。渡されり。泰時ぬ。  
 その囚人及書物と稟把つり。と。公。喬。ま。あ。年。月。と。經。て。檢。非。違。使。の。  
 裁断と候。を。あ。れ。り。も。宜。ま。う。阿。稻。と。在。の。ま。み。母。と。殺。さ。の。罪。あ。處。え。り。  
 諸人の痛と思ふ。然。然。と。救。さ。ん。罪。を。い。ま。ま。廳。所。の。官。人。も。その。候。り。と。  
 重。し。と。あ。奈。何。の。是。い。難。訴。ま。う。と。ま。あ。り。日。と。あ。夜。と。あ。ま。ま。と。巡。下

あ。ひ。け。り。信。と。その。妙。解。と。ほ。の。ひ。の。あ。一。件。の。人。と。六。波。羅。へ。と。召。れ。り。信。  
 而米作親子三個。その。后。絶。て。沙。汰。の。あ。け。り。阿。稻。の。獄。で。死。し。つ。ん。と。忌。日  
 へ。知。び。朝。夕。ふ。阿。稻。が。あ。る。香。華。と。備。へ。せ。れ。り。と。思。ひ。候。り。ふ。這。回。六  
 波羅の召みより。儲。の。存。命。形。と。あ。る。邊。莫。天。の。星。地。ふ。隕。て。衣。と。あ。る。も。命  
 活。て。あ。飯。と。ま。き。今。日。と。渠。と。法。の。如。く。ふ。行。ひ。の。あ。の。沙。汰。と。あ。り。め。り。と。更。み。薄。き  
 氷。と。踏。み。澤。辺。ふ。架。し。丸。木。の。橋。と。架。る。思。ひ。の。危。し。と。頼。り。六。波。羅。へ。あ。り。け。り。と。ふ。  
 上座より泰時ぬ。烏帽子直垂。威儀。と。履。ひ。左。右。の。ま。の。家。列。座。し。と。  
 米作父子と文注所へ呼。ま。う。三。個。の。惶。々。其。如。く。性。ふ。阿。稻。の。長。き。獄。住。の。瘦。衰。  
 以。眼。凹。と。色。青。さ。め。て。繩。あ。かり。筒。より。て。と。み。存。り。三。個。と。視。る。より。悽。然。と。と。  
 涙。と。瀾。然。と。流。し。俯。て。路。と。形。の。三。個。の。是。と。視。る。より。ま。づ。命。存。嬉。し。と。と。

瘦衰へる痛りさ。久く逢ぬ懐こまふ胸まづの。塞がれど檢折所めて言  
葉どふ。あまこさ成さる。千々の思ひ成胸おさめて俯け命と候。當下武  
泰時 声とそ。おま米作。你が次女阿稻とらう。箇様とらう。とふ周て母  
ぬ自害。と。後との訴文す。檢非違使の書物も分明。と。又聊相遠る。や  
筒ふ阿稻と。仇すの処相遠る。や。成を。如何あくと。問の。米作。田吉。早苗。諸共  
頭と。低て。緯の。顛末。粗と。と。ま。當下。晚稻が。親里。ある。尻花屋。も。ら。ふ。の。泰  
時。と。成。を。う。の。ひ。晚稻が。所。以。逸。く。ふ。愛。ふ。人。倫。の。所。為。ふ。あ。ら。び。然。と。ど。の  
是。と。言。と。ま。你。憾。と。ふ。思。ふ。お。め。と。命。お。ら。う。と。尾。花。屋。の。少。頭。と。搦。け。の。命。の  
と。く。晚稻が。所。行。人。面。獸。心。あ。る。の。の。お。と。渠。が。死。の。自。業。自。得。更。お。恨。む。は。か。う。の  
ゆ。め。何。卒。此。の。由。仁。惠。と。阿。稻。が。命。お。接。め。ら。有。難。と。と。ゆ。め。れ。と。云。せ。の

敢て武刃の声あびり。父又さびとらふと雖。み以て子さびのあぶら。ひ假令人面  
獸心。とも。お。成。教。せ。一。大。罪。人。と。許。さ。ば。是。より。王。法。奈。ま。ん。又。決。て。る。り。う。ご。し。  
然。の。あ。ま。ど。の。食。養。い。と。晚。稻。が。性。質。大。悪。也。虎。狼。お。倍。さ。ら。心。あ。り。も。腹。を  
痛。め。孫。十五。六。年。已。が。児。と。て。育。て。早。苗。と。執。殺。す。く。思。へ。う。う。米。作。你。の。米  
と。商。鼠。の。害。と。避。ん。と。ら。古。猫。と。畜。て。さ。し。如何。ゆ。と。問。と。と。さん。猫。と。畜。め。ら  
ゆ。の。の。泰。時。當。成。殿。と。撲。て。吾。の。妖。の。縁。故。と。お。ら。い。ぬ。う。九。十。有。九。年。の。杜  
猫。の。妖。て。災。と。ら。し。一。純。黄。純。赤。あ。る。の。一。暗。き。筋。お。於。て。先。と。逆。お。撫。と。ら。光  
ら。成。放。つ。の。の。一。常。お。油。と。敵。う。怪。と。ら。ま。の。表。あ。う。と。古。書。お。傳。う。ら。成。以。て。見  
ま。べ。你。が。家の。畜。猫。母。成。噬。殺。し。則。その。身。お。入。換。り。か。る。悪。の。成。做。し。ら  
る。べ。し。又。昔。の。工。の。村。老。漁。夫。が。昔。話。ゆ。の。ま。く。あり。曾。て。根。お。と。ら。ま。ん

晩稻の全くその類を。実の晩稻の猫の病を疾噬殺さす一の然り  
 又是の吾推量をも更小証拠とすまこのは。你等晩稻と埋り。墓に堀起  
 きて體をも速く持来り。眞偽を分るべしと命ふ。あはく頼着て畏  
 まるていども。晩稻が死せる去々年也。仮初めうると年小及六體の朽腐  
 且いべし。この泰時尙體の朽らうとも骨のあへん骨のをめて若くしと  
 命ふ。今頼美し。頻て菩提寺のあたりのひびきを極起し。看らふ案の  
 如く。肉の何時より爛れ腐りて。骨の些細の遺りう。人の骨は拾ひ箱に  
 斂めて六波羅入り。と云ふ。泰時此の骨の寄せ文注所の  
 板縁へ曲々ふ垂さる。吾閑人と獸との骨の容ふ異なる。人の骨は圓く  
 獸の骨は方んとす。你等あの骨圓くやる。角やる。頻まうせと云れて

人々うち接し。田舎まで踏躡あぞ。泰時の声とあけ。吾と互に獲らふ方あり。  
 你等が眼の如何ありや。頻と言せと宣ふ。人々心小是と曉り。其の骨は  
 圓く是の。斯宣をそ以てあはく。と言葉成込へく。吾們も角のをえゆと申  
 り。當下食及点のひ。此は吾等。小差を。晩稻ありと思ひ。猫の妖  
 怪を疑ひ。まされば猫母と殺す。女見ま。その猫と殺す。是は阿稻の討ら  
 び。母の敵に討らる也。母と害せし。のふあ。びの共繩を解免せとの。  
 命ふ。雜人立かり。阿稻が繩を解棄す。その嬉しこと有難さ。人々  
 涙涙止ら敢び。積雨の後。天日とる。うも猶晴々。家路をその取  
 けし。

北條泰時明新録第一輯卷之二終



